

独立行政法人農業技術研究機構の平成13年度に係る業務の実績に関する評価結果

農林水産省独立行政法人評価委員会農業技術分科会

1 総合評価

(1) 評価ランク A

(2) 評価に至った理由

「 予算（人件費の見積りを含む。）収支計画及び資金計画」については取り組みがやや不十分であったが、「 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」、法人の主要な業務である研究開発を含む「 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「 その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項」が中期計画の達成に向けて順調に進捗しており、全体として業務は順調に進捗していると判断し、Aと評価した。

(3) 総合所見

独立行政法人農業技術研究機構は、我が国の農業技術開発の中核機関として、専門研究と各地域での総合的な研究により、農業現場での実用化に向けた技術開発を行うことが求められている。また、付託された使命を持つ研究機関は設置形態の変更に際してもその研究業務を一時たりとも停滞させてはならない。このような観点から、平成13年度の業務の実績について調査・分析し、評価した結果は以下のとおりである。

主要な業務である研究開発については、6の専門研究所と6の地域研究所とを統合したメリットを活かし、多様な専門分野を融合した総合的な研究や麦、大豆など社会的ニーズの高い作物について行政と一体となった取り組みを地域ごとに進めた点を高く評価する。なお、環境保全型農業に関する技術開発及び研究開発、農業経営分野においては、業務の進捗がやや遅れているので、平成14年度以降取り組みの強化が必要である。その他の研究分野について、業務は順調に進捗している。

管理・運営については、「平成14年産麦を変える新品種の開発」など5つのターゲットを設定して研究を行い、得られた成果を公開試食会等を通じて国民に分かりやすく伝える努力を行ったことを高く評価する。また、これらの法人としての新たな取り組みと継続すべき各個の研究を巧みに仕分けて遂行した点も評価できる。とりわけ、動物衛生研究所が中心となって行ったBSEへの対応は、安全な牛肉の消費者への供給に重要な役割を果たし、専門研究分野を活かした社会貢献として特筆される。さらに、融合研究において、他の独立行政法人等の研究者を併任として活用した実績や果樹研究所の部長職を公募制により採用した実績は、独立行政法人制度を積極的に活用した意欲的な試みである。

なお、競争的資金の獲得、研究資源の重点配分については、今後一層の取り組みが必要である。

さらに、これら業務運営の効率化、主要業務である研究開発を通じた国民へのサービスの向上等への努力が、国民に理解され、適正に評価されるよう、財務運営面において明確に示していく努力が必要である。

2 各大項目ごとの評価

業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

評価ランク A

評価に至った理由及び所見

『 1 評価・点検の実施』

研究開発及び管理・運営に関する外部有識者による評価を実施し、研究業績評価の仕組みを整えるなど、業務は順調に進捗している。

なお、研究業績評価を処遇と研究資源の配分に反映するシステムは未整備であり、今後取り組む必要がある。

『 2 研究資源の効率的利用』

科学研究費補助金等競争的資金の申請件数及び獲得額が研究所の規模に比べて少なく、業務の進捗がやや遅れている。

今後、科学研究費補助金等競争的資金に積極的に応募し、資金獲得に努める必要がある。また、機構として重点的に取り組むべき研究開発について、なお一層の研究資源の重点配分に取り組む必要がある。

『 3 研究支援の効率化及び充実・高度化』

業務は順調に進捗している。なお、中期計画の達成に向けて、改善の具体化を進める必要がある。

『 4 連携、協力の促進』

融合研究において、他の独立行政法人等の研究者を併任するなど、業務は順調に進捗している。

なお、基礎研究の総合化を通じた実用化しうる技術開発という機構の使命を押し進めるため、人事交流も含めた他法人との連携をさらに積極的に推進する必要がある。

『 5 管理事務業務の効率化』

業務は順調に進捗している。

『 6 職員の資質向上』

業務は順調に進捗している。

これらを総合的に勘案し、Aと評価した。

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

評価ランク A

評価に至った理由及び所見

『 1 試験及び研究並びに調査』

「 1 A 農業技術開発の予測と評価手法の開発研究」については、業務は順調に進捗している。

「 1 B 多様な専門分野を融合した総合的な研究」については、業務は順調に進捗している。

「 1 C 共通専門研究・中央地域農業研究」については、業務は概ね順調に進捗している。ただし、「 1 C 10) 低コスト・省力化及び環境保全のための機械・施設に関わる作業技術研究の推進」における開発研究において、実用化を意識して研究に取り組む必要がある。また、環境保全型農業技術の新展開が必要である。

「 1 D 北海道農業研究」については、業務は順調に進捗している。中でも、「 1 D 4) 大規模畑作の持続的生産技術の開発」における小麦粉の新用途開発は評価される。

「 1 E 東北農業研究」については、業務は順調に進捗している。中でも、

「 1 E 6) 地域産業創出につながる新形質農産物の開発及び加工・利用技術」において、低アレルギー作物の育種、実用化、特許取得に向けた実績が評価される。

「 1 F 近畿中国四国農業研究」については、業務は順調に進捗している。中でも、「 1 F 3) 高付加価値化、軽労化等に対応した作物の開発及び高品質・安定生産技術の開発」において、稲発酵粗飼料用水稲の新品種並びに低グルテリン米の新系統の育成は高く評価される。

「 1 G 九州沖縄農業研究」については、業務は概ね順調に進捗している。中でも、「 1 G 3) 暖地畑作地帯及び南西諸島における持続的作物生産技術の開発」において、甘しょの新品種や機能性の探索に顕著な実績が見られた。ただし、「 1 G 1) 九州・沖縄地域の立地特性に基づく農業振興方策及び水田・畑作・畜産における省力・環境保全型・持続的地域農業システムの確立、及び沖縄等南西諸島農業における持続的農業システムの確立」の研究開発においては、実績はあるが、傑出した成果に至っていない。「 1 G 6) 高温多雨条件における自然循環増進技術の開発」において、一部の成果は個別事例の報告に止まっている。

「 1 G 9) 沖縄県北部地域の農業の振興に資する研究の推進」は、今年度から新たに開始された研究であるが、実績があがっていないので、今後研究の加速化が必要である。

「 1 H 作物研究」については、業務は概ね順調に進捗している。中でも、「 1 H 1) 水稻等の先導的品種育成、遺伝・育種研究及び栽培生理・品質制御技術の開発」において、稲発酵粗飼料用水稲の新品種並びに低グルテリン米の新系統の育成は高く評価される。ただし、「 1 H 3) 麦類の先導的品種育成、遺伝・育種研究及び栽培生理・品質制御技術の開発」においては、一部の研究課題で業務の進捗が遅れている。

「 1 I 果樹研究」については、業務は順調に進捗している。中でも、「 1 I 1) 省力・低コスト・安定生産技術の開発」において、早期開花遺伝子を導入したリンゴが26か月で開花・結実することを実証した知見は高く評価される。また、「 1 I 2) 消費者ニーズに対応した品質・機能性・貯蔵性の向上技術の開発」において、カンキツ、モモ、クリで新品種が命名登録されたことが評価される。

「 1 J 花き研究」については、業務は概ね順調に進捗している。中でも、「 1 J 1) 新規性に富み付加価値の高い花きの開発」においては、キクの遺伝子導入の実験系の確立などの優れた成果が得られている。ただし、「 1 J 2) 高品質で安定な生産及び流通利用技術の開発」においては、一部を除いて実績があがっていない。

「 1 K 野菜茶業研究」については、業務は概ね順調に進捗している。中でも、「 1 K 4) 葉根菜生産における環境負荷低減技術の開発」において、ハクサイ根こぶ病抵抗性についての連鎖群の遺伝地図作製と抵抗性QTLの確認は評価される。ただし、「 1 K 7) 消費者ニーズに対応した野菜の高品質生産・流通技術の開発」において、論文等の成果が不十分である。「 1 K 8) 嗜好の多様化、消費者ニーズに対応した茶の需要の拡大のための研究」において、一部の研究課題で業務の進捗が遅れている。

「 1 L 畜産草地研究」については、業務は概ね順調に進捗している。クローン家畜の技術開発が着実に進んでいることは評価できる。ただし、「 1 L

5) 育種技術の高度化による高品質飼料作物品種の育成」及び「 1 L 10) 資源循環を基本とする自給飼料生産・家畜管理システムの開発」において、論文、特許等の成果が乏しい。

「 1 M 動物衛生研究」については、業務は概ね順調に進捗している。BSEに対する迅速な対応は評価できる。ただし、「 1 M 1) 疫学研究の強化による家畜疾病防除の高度化」において、成果に新規性が不足している。「 1 M 3) 国際重要伝染病の侵入とまん延防止技術の開発」において、論文、特許等の成果に乏しい。

「 1 N 遺伝資源の収集、評価及び保存」については、業務は順調に進捗している。

「 1 O 公立試験研究機関等との研究協力」については、業務は順調に進捗している。

『2 専門研究分野を活かした社会貢献』

BSEの病性鑑定4,001件、外部からの技術相談4,477件など十分な実績をあげ、大きな社会貢献をしており、業務は順調に進捗している。

『3 成果の公表、普及の促進』

普及に移しうる成果、論文数等の項目で中期目標の達成に向けて十分な実績をあげており、業務は順調に進捗している。

なお、研究開発ターゲットの成果に関係した公開試食会や研究成果製品の販売等、国民にわかりやすい形で成果の普及に努めたことは高く評価される。

これらを総合的に勘案し、Aと評価した。

予算（人件費の見積りを含む。）収支計画及び資金計画

評価ランク B

評価に至った理由及び所見

実績報告から、経費節減、自己収入の増加、資金の柔軟な配分を通じて、主要な業務である研究開発を通じた国民へのサービスの向上に努めていこうとする姿勢が読みとれる。

しかしながら、独立行政法人制度初年度ということもあり、経費面における資料作成の考え方の整理が不十分であった点は否めず、このような姿勢に基づく取り組みの成果が、財務関係資料に十分に表現されているとは認めにくかった。

具体的には、

- ・ 予算対比における経費節減が不明確、
- ・ 自己収入増加に関する競争的資金への取り組みがやや不十分、
- ・ 資金の配分については、予算書上の経費区分において、一般管理費が増加している等、実態面での効率化の反映が不明確、

であり、その取り組みの成果が定量的に把握できなかった。

これらを総合的に勘案し、Bと評価した。

その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項

評価ランク A

評価に至った理由及び所見

『1 施設及び設備に関する計画』

業務は順調に進捗している。

『2 人事に関する計画（人員及び人件費の効率化に関する目標を含む。）』

総務部門の再編や公募制による採用8名（部長職の公募1名を含む）、任期付任用制による採用5名など、広範な人材確保に努めたことは評価される。業務は順調に進捗している。

これらを総合的に勘案し、Aと評価した。

（参考）本評価において用いた評価ランクは以下の3段階である。

- A：計画に対して業務が順調に進捗している
- B：計画に対して業務の進捗がやや遅れている
- C：計画に対して業務の進捗が遅れている